

比較家族史学会

会報 比較家族史 36

事務局〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

比較家族史学会 第三九回研究大会

■二日目(五月二二七日)

◆特別講演

日時 二〇〇一年五月二六日(土)・二七日(日)

場所 明治大学リバティータワー 一〇一教室(一階)

二五〇人入る教室ですが、入数が多くなった場合には、
一〇一二教室でテレビ中継できるようにしたいと思います。

テーマ 家族一一十一世紀への提言

森岡清美 淑徳大学教授(社会学)

■一日目(五月二二六日) 午前11時~(10:30受付開始)

◆自由報告

◆「戸」と「家」の連続性

明治四年戸籍法の検討

岡本朝也(関西大学大学院)

11:00~11:35

◆岡正雄とウイーン、そして明治大学

資料の所在をめぐって

山内健治(明治大学)

11:35~12:00

(昼食)

◆会長挨拶にかえて

日本における家族法研究の軌跡

利谷信義 東京経済大学教授(法社会学)

13:00~14:00

◆特別講演

日本の家と家族

比較家族史研究の視角から

住谷一彦 立教大学名誉教授(社会経済史)

ヨーロッパ家族史の新たな文脈
一世紀を越えて

M・ミツテラウアー ウィーン大学教授(社会史)

○懇親会(山の上ホテル・新館)

18:00~20:00
15:00~14:00

◆特別講演

歴史民族学からみた日本の家族慣習 10:00~11:00

江守五夫 千葉大学名誉教授(民族学)

家(大イエ→小イエ)から

家族(集団→ネットワーク)へ、そして 11:00~12:00

○総会 (昼食)

13:00~14:00

◆特別講演

人口転換と家族 14:00~15:00

家族の画一化、そして多様化 14:00~15:00

阿藤 誠 国立社会保障・人口研究所所長

(人口学)

◆前近代の家族と妻の地位

日本中世を中心として 15:00~16:00

脇田晴子 滋賀県立大学教授(日本史)

家族(親族)研究の終焉と新環境下の「家族」 16:00~17:00

渡辺欣雄 東京都立大学教授(社会人類学)

◆運営委員長

森謙二 運営委員 三成美保・安元稔・山内健治・若尾祐司

15:00~16:00

研究大会テーマについて

二〇〇一年度を二十周年の年度と考え、第三十九回・第四十回研究大会を二十周年事業の記念事業と考えている。ことに三十九回大会は二十世紀最初の研究大会であることを踏まえ、それぞの地域での家族研究の特性を踏まえ、二十世紀の家族研究を総括し、二十一世紀の家族研究を展望するような企画を心がけた。

今日、家族のあり方は多くの国々で問われている。先進諸国においては、離婚率が上昇し、少年犯罪が多発し、また少子高齢化が進むなかでいわゆる「家族の個人化」現象とともに家族から多くの機能が解除されていている。他方、発展途上国においては、近代化の進展とともに、人口が増加し、また人口の流動化のなかで、伝統的な家族の構造が変質を余儀なくされている。もちろん、このような変化は、先進諸国であれ、発展途上国であれ、それぞれの地域の歴史的展開や文化的個性に規定されており、変化のあり方そのものが多様であると言わなければならないだろう。

十九世紀から二十世紀にかけての時代は、家族にとつては「至福の時代」であったと呼べるかも知れない。家族的なつながりが強調され、家族愛が美しく描かれた時代であった。家族内の不平等が解消された訳ではないけれども、大家族の親密的な関係が理想化された時代でもあつたし、夫婦と幼い子ども達によつて構成される小家族の生活が人々の「幸せ」を表現する時代でもあつた。しかし、二十一世紀は家族にとつて幸福な時代であり続けるだろうか。多くの人々は、幸福であり続けることができないであろう家族に不安を感じ始めている。

二十世紀は「幸福な家族」の時代の中、膨大な家族研究が蓄積してきた。この二十世紀の家族研究を振り返り、二十一世紀の家族を展望するような基礎的な研究を必要としている。

この記念大会において、まず二十一世紀の家族研究を振り返り、二十一世紀の家族研究を展望するようなものにしたい。もちろん、この大会だけではこのような枠組み作りが可能であるとは思わないが、この記念大会を足がかりとして、二十一世紀に向けての新しい家族研究の出発点とし、また学際的な家族研究の再構築の場にすることを期待したい。なお、運営委員会としては次のような観点から報告をお願いした。

(一)三十九回大会では、ヨーロッパの家族研究を踏まえ、かつ日本の家族理論に大きな影響を与えた諸先生に報告をお願いした。諸先生の家族理論の展開と後進へのアドバイスを中心とした講演をお願いしたい。

(二)これまでの家族理論への批判的に検討し、家族理論の新しい可能性を模索する、このようないかたの観点から報告をお願いした。

(運営委員長 森 謙二)

内容に関する連絡
森 謙二

二 研究大会・懇親会の出欠を、同封のはがきにて、五月十二日までにお知らせ下さい(必着)。なお、大会参加費は一〇〇〇円、懇親会費(山の上ホテル)は九〇〇〇円です。二十周年の記念ペーティーもあるので、山の上ホテルで開催することになり、値段も高めの設定になります。山の上ホテル(ヒルトツップホテル)は、明治大学リバティーダワーのすぐ隣です。

三 弁当は特に用意致しません。学内の食堂および近くのレストランなどをご利用ください。

四 運営委員会では宿泊の斡旋は致しません。ホテル等は各自ご予約下さい。

五 交通 お茶の水駅JR・新宿寄り出口下車五分。その他いくつかの方法があります。別紙参照。

事務局からの連絡

一 会費納入のお願い

未納分の有無に関わらず、全員に振込用紙を同封しております。封筒住所ラベルの下に既納年度が記載されております。年会費は、個人会員は三〇〇〇円、賛助会員は五万円です。なお封筒の住所ラベルに記載された数字は平成一三年四月一五日現在のものです。行き違いの節はご容赦ください。

一 第三十九回研究大会連絡先

郵便・電話

〒113 東京都千代田区神田駿河台一
明治大学政治経済学部 山内健治研究室
電話 ○三一二二九六一四五四五(代)
メール

事務的な連絡
山内 健治

二 『シリーズ比較家族』の購入について

早稲田大学出版部より刊行の『シリーズ比較

家族』各巻購入希望の方は、同出版部まで直接

お問い合わせください。

電話 ○三一三二〇三一一五五一

三 『比較家族史研究』のバックナンバーについて

購入希望の方は、左記宛てご連絡下さい。

『比較家族史研究』は会員には一冊無料で配布

しておりますが、会員配布分以外の最新号やバ

ックナンバーを購入の場合には有料(二割引き)と

なります。非会員も同様です。品切れ・残部僅

少の号もありますので、お問い合わせ下さい。

〒166八丁目 東京都小金井市貫井北町四一
東京学芸大学地域研究学科 吉野晃研究室

比較家族史学会事務局年報発送係

fax ○四二一三二九一七三三二

四 『事典家族』の購入について

本学会の一〇周年事業として刊行されました

『事典家族』は、会員は定価(二二二〇〇円)

の二割引で購入できます。購入希望者は本学

会の会員であることを伝えて、直接弘文堂まで

申込んでください。

申込み先

〒166八丁目 東京都千代田区神田駿河台一
弘文堂編集部 浦辺雄次郎様

電話 ○三一三二九四一七〇〇三
FAX ○三一三二九四一七〇〇三四

五 日本性教育協会および味の素食の文化セ
ンターからのインフォメーションがあります(別

紙)。応募希望者および質問等は、同封の別紙
を御参考の上、直接御連絡ください。

理事会議事録

一 二 三

日 時 二〇〇〇年一〇月二七日

場 所 キヤンバスプラザ京都

出席者数(委任状を含む) 三九名

会計報告

一 二 三

退会、新入会員の承認(別項参照)

会計報告

一 二 三

次回以降の研究大会の準備状況

次回と次々回は二〇周年特別企画として検討。

次回は二〇周年特別企画として、二〇

世紀家族研究の総括を予定。特別委員会

からの報告。二〇〇一年五月二六・二七日

と決定。報告候補者への依頼状況報告。

次々回は韓国にて開催の予定。運営委員会からの報告。

一 二 三

『比較家族史研究』の編集について

年度内刊行に向けて編集中。査読のあり方について検討。

一 二 三

『シリーズ比較家族』の刊行進捗状況

「父—家族概念の再検討に向けて」、「恋

愛と性愛」、「介護と家族」の三冊につき編

集作業継続中。シリーズ各巻販売状況報告。

一 二 三

学術会議関連事項について

学術会議研連委員より登録問題経過

説明。

著作権協議会との委任契約について
二〇〇一年春、秋大会につき審議

八

秋大会につき、運営委員会の案提出
案。

その他

学会報告および学会誌刊行に関する
学術情報センターの利用について

総会議事録

日 時 二〇〇〇年一〇月二八日

場 所 京都文教大学弘誓館

会計報告

退会・新入会員の承認

次回の研究大会について

二〇〇一年五月に特別大会開催。場所は明治大学(東京)。テーマは「二〇世紀家族理論の総括」の予定。

韓国大会はソウルにて開催。多数の会員の参加を要請。

なお韓国大会の予告(開催趣旨・大会案内)および参加申し込み方法については、この会報の後半に案内があります。

『シリーズ比較家族』について

編集委員長より進捗状況の報告。

『シリーズ比較家族』の刊行について

学術会議関連事項について

二〇周年記念特別企画について

著作権協議会との委任契約について

新入会員

(第三八回大会総会での承認者)

上杉 富之

ツバの奇跡』名古屋大学出版会、二〇〇〇
年、三八〇〇円。

義江明子『日本古代系譜様式論』吉川弘文館、

二〇〇〇年、七〇〇〇円。

津波 高志

総合女性史研究会編『史料にみる日本女性の
あゆみ』吉川弘文館、二〇〇〇年、二三〇〇
円。

高橋 由紀

倉地克直・沢山美果子編『男と女の過去と未
来』世界思想社、二〇〇〇年、二二〇〇
円。

琉球大学法文学部 社会人類学

陳 鳳

戸学院大学大学院 社会学

窪田 幸子

広島大学 文化人類学

大胡 修

文化人類学

西田 麻衣子

明治大学 民俗社会学

札幌国際大学 文化人類学

山根 真理

愛知教育大学 家族

社会学

所属変更

青木美智男

専修大学文学部

上杉 富之

成城大学芸術学部

岡庭 義行

帯広大谷短期大学

高橋 秀樹

文部科学省(名称変更)

高橋 由紀

(社)農村生活総合研究センター

地主 翁

関西国際大学経済学部

中野 泰

筑波大学歴史・人類系

服藤 早苗

埼玉学園大学人間学部

若尾 典子

県立広島女子大学(名称変更)

◇この欄では会員の著作(単行本)を紹介しています。『比較家族史研究』の書評・文献紹介の資料ともなりますので事務局までお知らせください。

落合恵美子『近代家族の曲がり角』角川叢書、
二〇〇〇年、二八〇〇円。
龜長洋子『中世ジエノバ商人の「家」』刀水書房、
二〇〇一年、二二〇〇〇円。
植野弘子『台湾漢族の姻戚』風響社、一〇〇〇
年、七四〇〇円。

なお、以下の会員の転居先が不明となつております。ご存じの方は事務局までご一報下さい。

渡辺秀樹 清水和邦 大西恵子 石橋誠

住所・所属等の変更

住所変更

青木美智男

稻本洋之助

会員通信(事務局に連絡のあつたもの)

会員著作(単行本)

E・レジヨーンズ著、安元稔・脇村孝平訳『ヨーロ

比較家族史学会二〇周年記念 韓国ソウル大会のご案内

ご承知の通り、本学会も本年で二〇周年を迎える。つきましては、下記の通り、二〇周年を記念して韓国ソウルでの研究大会を企画いたしました。本大会は韓国家族学会の協賛で行なう予定です。また、運営委員長の崔吉城先生のおほかから、めったに見ることができない韓国のシャーマン儀礼を見学するエクスカーションも計画しております。どうぞ多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。なお会員以外の方々の参加も歓迎いたします。ご家族、ご友人など、お誘い合わせの上ご参加下さいますように、運営委員一同お待ち申し上げております。

日時 二〇〇一年十一月三日(土)・四日(日)
会場 韓国ソウル 教育文化会館

韓国大会開催の趣旨

儒教は中国を中心として、南はベトナム、東は朝鮮半島から日本にかけて東アジア全体に大きな社会的影響力を持つた思想です。儒教は父系、長幼の序列、孝など、家族倫理を通じて、国家と個人を律する規範として、現在に至るまで社会の基底を貫く原理となっています。今回の研究大会が開催される韓国は、儒教が社会規範として現在でも色濃く残っています。確かに父系を強調し、ある意味で男性中心の倫理観があるので、東アジアの家父長制を形成する理念として存在しました。しかし、その中で女

性も「伝統文化」の担い手として、また文化を維持する役割は、男性のものと表裏一体に付与されています。さらに女性の場合、家族・親族・社会の役割や規範から自由になり、新たな価値観を獲得する変化の担い手になる場合もあります。ジェンダー研究からは、そうした揺らぎの中から、社会が変容する動態的視点があります。

韓国社会は、従来、秋葉隆が提唱した男性中心の儒教文化と女性のシャーマニズムという二元論的な説明をされることが多くありました。しかし、近年のジェンダー研究の展開により、日常に潜む同化と差異化の政治学を顕在化させ、ジェンダーをめぐる揺らぎや社会の再編過程を明らかにする、新たな視点を提供しています。

韓国の家族研究をテーマにする場合、比較家族史学会のシンポジウムとする特質は何でしょうか。それは、韓国家族を題材に、その発表に対するコメントーターと参加者が、異なる分野・地域・専門から、幅広く学際的な討論を交わすことであり、男性中心と考えられている儒教倫理を、ジェンダーの視点から分析して再構成することが、このシンポジウムのねらいであります。

また韓国は、日本との関係が深いことは言うまでもありません。今後、近くて近い国であるために、アジアを研究テーマにしていない会員に対して、韓国家族の発表を聞くだけでなく、その背景となっている社会を実体験してもらい、韓国の家族研究者との交流を持つことで、家族研究をするための「比較」の視点を、一層広げる機会を提供することが、もう一つのねらいでも

あります。

(運営委員長 崔吉城)

プログラム(予定)

■十一月三日(土)

◆基調講演

・韓国家族研究の状況 李 東媛(梨花女子大学教授・韓国家族学会長)

・東アジアの家族研究 李 光奎(ソウル大学名誉教授)

・法制史から見た家族研究 朴 乘濬(ソウル大学名誉教授)

・日本における韓国家族研究 竹田 旦(茨城大学名誉教授)

◆シンポジウム

テーマ ジェンダーと儒教

・濟州島海村における家族

・儒教的家父長制と近代家族

・津波高志(琉球大学教授)

・在日と家族

鄭 英恵(大妻女子大学教授)

・全体討論

司会 上野千鶴子(東京大学教授)

朴 富珍(明知大学教授)

□懇親会 教育文化会館にて 19:30 ~ 21:30

■十一月四日(日)

エクスカーション 韓国のシャーマン儀礼見学(予定)

大会参加費 三、〇〇〇円
懇親会費 四、〇〇〇円
昼食 一、〇〇〇円

エクスカーション 実費(三、〇〇〇円程度)

☆宿泊と航空機について

今回の研究大会は、海外で行なわれる関係上、ソウルでの宿泊、往復の航空機を含めて、すべて運営委員会にて手配いたします。

宿泊は、大会会場でもある教育文化会館(特級ホテル、ツインルーム)を手配いたします。宿泊費は、特別に割引していただきますので、一泊一名(相部屋)五、〇〇〇円程度です。

個室をご希望の方は、一泊一〇、〇〇〇円程度となります。(日本円価格はあくまでも予定です)

また航空機は、成田空港—ソウル(往復)、関西空港—ソウル(往復)の航空機を手配いたします(その他の空港利用の方は、各自でなるべくお早めに手配願います)。なお大会が行なわれる時期は、観光等でもっとも混雑している時期もあり、確保できる航空機の席に限りがあります。宿泊・航空機とも、遅くとも六月初旬までに予約金を添えて申し込まねばなりませんので、参加ご希望の方は、必ず五月末日までに、メールかFAXにてお申し込みください。特に航空機は一日でも早目にお申し込み下さい。

【ホテルの予約】原則として、十一月一日から十一月四日の宿泊まで手配いたします。ご希望の方は、氏名(パスポートと同じアルファベット表記)・住所・電話番号・所属・人数(相部屋でよい

か個室希望か)・宿泊希望日を明記の上、お申込み下さい。

【航空機の予約】下記のように、往路は十一月二日(金)、復路は十一月四日(日)の予約を手配いたします。申し込みは、ホテルと同様に、下記の便番号(①～⑤)・氏名(パスポートと同じアルファベット表記)・所属を明記の上、メールかFAXにてお申し込みください。なおこの時期は大変混雑しており、席に限りがありますので、往路と復路の組み合わせの選択はできません。また予約は先着順といたします。特に成田発着便は混雑していて、予約が困難なので、少しでも早い予約をお願いします。

なお、十一月一日(木)、十一月五日(月)など、前後日程の便をご希望の方は、その旨を明記してお申し込み下さい。別途予約の方法をご案内いたします。

東京発着便は、往路復路とも便の指定ができないほど混み合っています。早め早めのネームインで便を押さえなければなりませんので、便の指定はできません。料金はどの便になつても一律六七、〇〇〇円です。想定される便は以下の便で二分割になります。

【⑤便】
往路KE702便(成田発12:55～ソウル着15:20)
復路UA807便(ソウル発18:40～成田着20:55)
及び

往路UA827便(成田発14:50～ソウル着17:30)
復路KE705便(ソウル発17:55～成田着20:55)

【申し込み先】

FAX ○七五一四九三一九〇四〇(佛教大学
代表)

【①便】
大阪発着便

往路KE724便(関空発13:40～ソウル着15:30)
復路KE721便(ソウル発19:05～関空着20:45)

以上の便を利用する場合 五六、〇〇〇円

【②便】

往路NH171便(関空発09:50～ソウル着11:30)
復路NH178便(ソウル発19:10～関空着20:45)

以上の便を利用する場合 五二、〇〇〇円

【③便】

往路OZ111便(関空発13:10～ソウル着15:00)
復路OZ118便(ソウル発19:20～関空着20:00)

以上の便を利用する場合 五二、〇〇〇円

なお、お問い合わせは、運営委員庶務担当の佛教大学八木透(TEL〇七五一四九一一〇二四〇(内線)七〇六七)までご連絡下さい。